



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 365

Dezember 2021

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

神戸日独協会ドイツ文化特別講座

「ドイツ語と音楽・ドイツリートとオペラの旋律」

19世紀、ドイツ語の歌詞を用いる歌曲やオペラは、クラシック音楽の中で独自のジャンルを確立しました。これらの「ドイツリート」や「ドイツオペラ」は旋律と言語が密接に結びついています。2021年春に開講した神戸日独協会第一回ドイツ語特別講座(オンライン授業)において、私はドイツ語の「基礎文体」についてお話ししました。実は、これらの「文体」は18世紀から19世紀初頭の音楽教科書の中でも取り上げられており、それぞれの「文体」の特色を旋律によって適切に表現することは、作曲家に求められる能力の一つでもありました。

今回の講座では、第一回目のレッスンで言語と音楽のそれぞれの聴き方、言語の文法と音楽旋律の「文法」などをテーマにお話しいたします。また、その後の三回の講座では、歌曲の具体例を取り上げながら、時代や作曲家を超える共通点とそれぞれの特徴を追跡します。

オンラインZOOM授業で行いますので、時間の都合や感染予防などで教室へ通えない方にお勧めの講座です。公開講座ですので、非会員の方も是非ともご参加ください。

講義内容と開講日:

第1回1月22日: 言語の「旋律」対 音楽の「旋律」・歌曲の「文法」とは?

第2回1月29日: ウィーン古典派の旋律、モーツァルト、そしてベートーヴェンとシューベルト

第3回2月 5日: R.シューマンとR.ワーグナー

第4回2月12日: G.マーラーとR.シュトラウス

担当講師: 神戸日独協会常務理事 Dr. Stefan Trummer-Fukada (元神戸大学教授)

オーストリア生まれ、ウィーン大学で音楽学、演劇学、日本学を、さらにウィーン・F.シューベルト音楽学院で作曲を学ぶ。在学中にオーストリア政府奨学生として日本留学、長年日本の大学で教鞭をとる。博士論文をはじめ、ドイツ語圏の作曲学史について数々の論文を発表。第14回吹田音楽コンクール作曲部門第1位、2004年アイランド・アークロウ音楽祭優秀賞。

開講日時：2022年1～2月の土曜日午前10:30～12:00

授業形式：ZOOMによるオンライン授業。協会会議室での聴講も可。

定 員：各講義20名

受講料：1回会員1000円(非会員1500円)

お 申 込：神戸日独協会事務局へ電話(078-230-8150)またはメール(info@jdg-kobe.org)にて、
1月19日までにお申込み下さい。

申込締め切り後も各講義に余裕がある場合には受け付けますが、それぞれ2日前の
木曜日まで事務局へお問い合わせください。

申込後、入金を確認し次第、アクセスのリンクをお送りします。

特別講座について

特別講座は、神戸日独協会の特に財政的な苦境に直面して、協会理事の皆さんが「ドイツへの興味を、ドイツ語への関心をさらに持っていただきたく」、そして協会の活動を会員皆様とご一緒に盛り上げていただきたく、それぞれのご専門から「ドイツを」を呼びかけていただいている講座です(もちろん無報酬)。これまで、4月～6月の「ドイツ語特別講座」、今回の「160周年記念講演会」でそれぞれのご専門領域から「ドイツへの興味・関心を」新たに持っていただきたく呼びかけを行ってきました。是非ともこれらの特別講座を通して、ドイツへの新たな気づきを感じいただき、日独交流にお力添えを頂きたく、お願い申し上げます。ご参加をお待ちしています。

(会長 枘田義一)

2021年度第Ⅳ期開講

1月11日(火)からドイツ語講座・ドイツ文化教室の2021年度第Ⅳ期が開講します。

本年度は4月の第Ⅰ期以降オンライン授業の導入、感染防止諸措置の解除後はクラスの事情に応じて対面授業への移行、秋からは対面授業(一部オンライン併用)で休むことなく継続することが出来ました。会員及び受講の方々のご理解とご協力に感謝いたします。

長きにわたるコロナ禍のためにかつてのようなドイツ及びドイツ語圏の国々との往来もままならず、ドイツ人との交流も疎遠がちになりました。日独交流の本格的な復活に備えて、この機会をドイツ語の学習はじめ、ブラッシュアップ、学び直しの好機ととらえませんか。

開講授業の詳細については、同封のパンフレットをご覧ください。か、協会事務局へお問い合わせ下さい。

ドイツ語講座の多くのクラスは前期からの継続クラスですが、途中からの受講は可能です。

寒冷に加え感染が懸念される今年の冬は、駅からも近い教室でドイツ語講座・ドイツ文化教室に参加しませんか。ご参加をお待ちしています。

「日独交流160周年記念講演会」報告

会長 枘田 義一

11月27日(土)に神戸倶楽部にて「日独交流160周年記念講演会」を開催しました。10月よりコロナ感染が全国的に激減しましたので、長きコロナ禍後の協会活動の再開行事としての開催でした。感染の影響が全く払拭されてはいませんので、会場参加者の制限、会場での感染予防の徹底を行いました。会場参加者制限の補いとして、そして何よりも「元気な神戸日独協会と神戸」を全国へ発信したくオンライン(Zoom)を導入しました。更に講演のドイツ語同時通訳とパワーポイントのドイツ語訳によってドイツへも発信しました。

Eberts 総領事を協会行事にやっとお招きすることが出来ました。記念講演をしていただいた上に、休憩時には会員ともご懇談をしていただき、お礼を申し上げます。ベルリンのOlbrich元総領事からは祝賀メッセージ動画をいただき、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン独日協会 Reißlandt 会長からは祝賀メッセージで今後の両協会の交流のご提案をいただきました。

第二部の「神戸での日独交流の展望～先端技術・産業の紹介」では、パワーポイントなど入念なご準備の上興味深いご講演を下さりまして、ご講演者の皆様に厚くお礼を申し上げます。講演会の内容の詳細につきましては、会場参加の川見正之さんとドイツでオンライン参加の竹中ららさんのご報告・ご感想をお読みください。

これまでたびたび協会は「周年記念講演会」を行ってきました。しかし今回はコロナ感染予防という大きな制約の下での開催になりました。その上初めてドイツへのオンライン発信を行いました。そのためにドイツ語同時通訳とパワポ類のドイツ語訳ではStefan Trummer-Fukada 理事に、会場でのオンライン設定と運営では林良子理事並びに神戸大学関係者に一方ならぬご尽力をいただきました。厚くお礼を述べます。準備の段階よりご尽力をいただいた協会事務の方々、当日受付などをしていただいた方々に厚くお礼を述べます。

今回は多くの方々のご尽力・ご協力をいただいて、無事「講演会」を行うことが出来ました。そして何よりもコロナ禍の影響も残る中、会場へご参加いただいた会員の皆様、オンラインにてご参加いただいた皆様に心よりお礼を申し上げます。

日独交流160周年記念講演会に参加して

会員 川見 正之

日独交流160周年記念講演会が11月27日に神戸倶楽部で開催され、会場参加させて頂きました。長引くコロナ禍の為、On Line だけでなくリアルな集まりが神戸倶楽部で開催されたのは2019年12月のクリスマス祝賀会以来のことです。今のところ、日本ではコロナ感染者数は低いレベルで安定していますが、今回の講演会では、入場時の検温、手指消毒、マスク着用、1テーブル4人以下、アクリル板のパーティション設置等の感染対策をおこなった上での開催となりました。個人的な感想を含め概要を下記させていただきます。

枡田会長のご挨拶の後、Martin Eberts 総領事の記念公演「ドイツ政府インド太平洋ガイドラインでの大切なパートナーとしてのドイツと日本」があった。ルールに基づいた国際秩序の構築、安全保障、気候変動政策、人権の尊重等がこのガイドラインに謳われており、日本 ドイツの共通の利害関係や共通の価値観にも合致する。ドイツではメルケル政権から次期連立政権への過渡期であるが、政権移行後もガイドラインの方針は継続されるであろうとのことのお話であった。

Eberts 総領事は昨年7月に着任され、本来なら既に色々な行事でお目にかかる機会があったはずだがようやく叶った感じがした。

続いてビデオにて元ドイツ総領事の Olbrich 氏、及びシュレスヴィヒ・ホルシュタイン独日協会会長 Reißlandt 氏より祝賀メッセージが披露された。10年前の東日本大地震やコロナ禍の困難を超えた神戸日独協会との交流についてのお話が印象深かった。

パネル展示とカフェ・パウゼを挟んで、第二部「神戸での日独交流の展望」講演では、兵庫県産業労働部国際局長 横川氏、神戸市市長室国際部長 檀特氏が、それぞれ兵庫県や、神戸市の特性を活かした経済分野、観光、最先端技術での日独交流の展望を紹介された。

旅行サイトのトリップアドバイザーで発表された「死ぬまでに行きたい世界の名城25選」でドイツ・ノイシュバンシュタイン城(白鳥城)が1位、姫路城(白鷺城)が2位となりこれを機に2015年3月に両城の友好交流協定が結ばれ、白い鳥つながりでの日独交流となったエピソードは興味深かった。又、様々な誘致活動の結果、神戸市は全国で2番目に国際会議の多い都市であるとのことのお話があったが、医療やエネルギー、先端技術、その他専門分野で世界的に神戸の知名度上昇につながるのには素晴らしいことだと思った。

「神戸発の先端技術、産業」として川崎重工(株)水素戦略本部プロジェクト総括部推進部担当部長 小山氏が「国際水素サプライチェーン構築に向けた取り組み」を紹介された。私自身 以前は火力発電に関係する業務に携わっていたので、脱炭素時代のエネルギー供給のあり方を見据えたこのテーマは新技術への期待と興味を持って聞かせていただいた。特にオーストラリアで褐炭から製造された水素を液化水素運搬船で神戸空港島基地まで運び、そこでの実証試験を経て液化水素機器システムの国内開発拠点とする構想は、世界からも注目されている。

「神戸の医療産業」の紹介としてはシスメックス(株)グローバルマネジメント本部長 赤松氏より同社の手術支援ロボット hinotori や新型コロナウイルス感染症検査、薬剤耐性検査迅速化の取り組み等を説明された。まさに我々が直面する、感染症の脅威、高齢化への備えに必要とする技術だなと思った。

17時から20時30分まで長時間にわたる講演会でしたが、興味深く拝聴しているうちにコロナ禍で自粛していた私の脳も活性化したような気がしました。

Eberts 総領事はじめ、講演者の方々、枡田会長はじめ今回の開催に尽力してくださった方々に感謝申し上げます。

「日独修好160周年」記念講演会を拝聴して

会員 竹中らら (Jena 在住)

本年2021年は、日本とドイツの友好関係が成立してから160年目にあたる年です。また昨年は、

神戸日独協会の設立80年目、そして東西ドイツの統一30年目の年でした。これらを記念して、11月27日に神戸市にて記念講演会が行われました。この講演会を拝聴した感想を書きます。

講演会は、神戸日独協会会長の枘田義一教授の挨拶にて幕が開けました。コロナ禍による制限や自粛を強いられた二年間を経たこの記念講演会の開催は、協会の活動の再開を記念するものでもあり、本催しに参加する機会を得られたことに喜びを感じました。

第一部では、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事の Martin Eberts 氏による記念講演「ドイツ政府インド太平洋ガイドラインでの大切なパートナーとしてのドイツと日本」が行われました。ドイツ政府は2020年9月2日、インド太平洋地域におけるドイツの役割を長期的に強化することを目指し「インド太平洋ガイドライン」を決定しました。このガイドラインに基づき、外交・安全保障・環境・経済など様々な分野で、ドイツと同地域の協力が進められてきました。

外交・安全保障分野では、同地域での国際秩序のために、「戦略的パートナーシップ」が結ばれました。訓練航海などを始め、地域の安定への積極的な貢献が行われています。環境分野でも、ドイツは気候変動問題の解決やエネルギー転換の支援のための取組みを支援しています。経済分野では、自由貿易協定を締結するなど、経済関係の充実も図られています。

ドイツ政府によるインド太平洋地域へ新しいアプローチは、双方の地域の将来的な発展を目指すものであります。またドイツと日本の間では、両国それぞれの強みを活かした社会・文化・人的交流・科学技術面での協同が常に行われています。ドイツと日本のパートナーシップ体制が国境を越え、インド太平洋地域におけるさらなる成長へとつながり、継承されることを願います。

記念講演に続き、元ドイツ総領事の Alexander Olbrich 氏とシュレスヴィヒ・ホルシュタイン独日協会長の Monika Reißblander 氏による祝賀メッセージが披露されました。Olbrich 氏は、日本とドイツ各地における日独協会の活動が両国の交流の開始から継続的に行われ、さらなる活力を見出していること、近年ではオンラインによる交流の場が広がったこと、そして両国の相互交流が実際の場面でも再開されることを切に願われていることを強調されました。Reißblander 氏は、同協会が日独間の文化仲介に力を注がれていることをお伝えにられました。本年10月には、「キールにおける日本・プロイセン・日本修好160年」が催され、日独の経済・文化交流、再生可能エネルギーや医療技術、生徒交換に関わる多様なプログラムが実施されました。また、同協会では日本語教室やペンフレンド交流の支援など、地理的に遠く離れていても活発な交流が実現できるよう尽力されています。たとえ距離的、また社会情勢の制約があったとしても、このような両国の交流に寄与する活動が各地で継続的に行われていることは、大変素晴らしいことです。

カフェ・パウゼでは、パネル展示「持続可能な兵庫に向けて～環境・産業・生活から～」が行われ、協会の若手会員による活動の紹介が行われました。神戸市が周辺の地域と協力しながら産業や生活を維持・発展させ、サステナブルな都市へと成長していくことを願います。

第二部では、「神戸での日独交流の展望～先端技術・産業の紹介」をテーマに講演が行われました。まず、兵庫県産業労働部国際局長の横川太氏が「兵庫県の日独交流と今後の展望」として、友好交流提携を結んでいるシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州との交流の成果や、兵庫県における経済・文化・教育・観光産業などの分野でのドイツとの連帯の状況について発表されました。引き続いて、神戸市市長室国際部長の檀特竜王氏が「神戸市の日独交流と今後の展望」として、神戸市における国際会議を通じた産・学・官連携の状況、経済・文化・環境などの分野での交流を報告

され、神戸市においてはドイツ系企業や在ドイツ人学校を始め、食生活や街並みといった生活文化にもドイツとの深いつながりが見出されることをお伝えになりました。

神戸市が今後の重点分野として掲げる水素産業については、まず川崎重工業株式会社の水素戦略本部プロジェクト総括部推進部担当部長である小山優氏が「国際水素サプライチェーン構築に向けた取り組み」を報告されました。エネルギーの供給方法として、再生可能エネルギーと電池に加え、水素発電には多くの利点があります。この水素サプライチェーンを商用化するため研究と実践が行われており、脱酸素を軸とする水素社会が実現すれば世界全体にとって大きな一歩となるでしょう。神戸市が重きを置くもう一つの分野の医療産業については、シスメックス株式会社グローバルマネジメント本部長の赤松慎治郎氏が「シスメックスの取り組み」を報告されました。検体検査領域における様々なソリューション開発の中でも、新しい取り組みとしてCOVID-19に対する抗体検査を学校や空港に供給する体制が構築されました。現在も神戸市のポートアイランドでは、産官学が協力してさらなる研究開発が進められています。

兵庫県及び神戸市は、歴史的にも日本において最もドイツと交流が深い地域の一つです。その交流は160年たった今もなお、絶え間なく続いています。また近年では新しい産業分野でも協力体制の構築が目指されており、今後の展開が期待されます。本講演会では、現在の政治や経済分野における日独のパートナーシップの在り方、そして兵庫県及び神戸市の多様な魅力、そして世界を牽引する新しい産業分野での取り組みを理解することができました。講演会を拝聴した私自身は現在ドイツのイエナ大学の大学院に通っており、この講演会にて再確認した兵庫県及び神戸市の魅力をドイツ各地へと発信することができます。神戸日独協会の会員として、両国のさらなる活発な交流に貢献していきたいと思えます。

会員による企画「手作りドイツ風クリスマスを迎えませんか」

「我が家の手作りクリスマス食卓」に参加して

岩佐 えり子 (An die Musik ピアノ)

アドベントも始まり、色々とクリスマスの飾り付けをして行こうという時にタイムリーにもドイツ、日本を感じる事の出来る楽しいイベントに参加させて頂きました。

賛沢にも講師は3名、筆書きのカード制作指導を小田晶子氏が、ドイツの楽しいお菓子作りを日下部管子氏が、可愛いツリー飾りやナフキン制作を栢田節子氏が色々な準備をして、楽しく御指導下さいました。

まずは私達にも馴染みのある筆を使ってのクリスマスカードやランチョンマット作りに挑戦。

これが字を書くのではなく、絵を描くので筆の使い方が全く違い、最初は自身のセンスの無さにガックリしながら、ラインを書く練習から始まり、もみの木の葉の描き方、実の描き方などアドバイスを受けながら、描いていくと全くの初心者もそれなりに？！仕上がっていき、もっともっと練習したくなって行きました。

続いてはマールブルクにいらした日下部氏による楽しい松ぼっくりのお菓子作り。

土台となるマッシュポテトにココアパウダー、お砂糖をビニール袋にいれて、モミモミするだけ！というお手軽さに「これは簡単に出来そう🍷」と身を乗り出します。クリスマスプレートに乗せられたこのマッシュポテトを円錐形に整えて、下からコーンフレークをこの土台に差し込んでいだけ🌟とお話により、ワクワク♥□

上までコーンフレークを飾り付けたら、手で開いた松笠を少し閉じる様にして整形、粉砂糖を振りかけるから、多少 形は悪くても大丈夫！のお声に納得。

見かけは松ぼっくりにそっくり！でご満悦。

最後は額にもみの木を花やりボンで飾り付けていきます。

下準備も入念にして頂き、発泡スチロールの木の土台にボンドを付けて差し込んで行くのですが、ここでもセンスが問われます。

ア、ここには違う花を挿せば良かったなど、出来上がってから反省するも、時既に遅し💧

しかし、用意下さった物がセンス良く色も整っているのので葉を周りに飾り付け、額に入れたら、それなりに我が作品でも素敵に見えます！

ナフキンを折ってツリーやバラの飾りを作り、机の上はすっかりクリスマスになりました。

最後にお茶と皆で作った松ぼっくりを味わい、もう顔は緩みっ放しでした。

オマケにカードスタンドを戴いたり、くじを引いてクリスマスプレゼントを戴いて、童心に戻った気持ちで、会場を後にしました。

ドイツに滞在した最初のクリスマスには、まだ温かいお手製のシュトーレンを頂いたのを思い出し、手作りを大切にドイツにまた思いを馳せました🌲 楽しいイベント、有難うございました🍷

Stammtisch mit Zoom

ドイツのオーケストラで 43 年間:小野 真理

神戸日独協会の会員にドイツのオーケストラでヴァイオリンを弾いていたという方がおられると聞いて、是非お会いしてみたいと思っていました。神戸日独協会には何年かドイツにいたという方は大勢いますが、43年間というのはなかなかの年数です。

小野真理さんは大阪音楽大学在学中の1975年に、Hannover と Freiburg に留学していた先輩の話を聞き、卒業後はドイツで音楽の勉強を続けたくなったそうです。急遽ドイツ語の勉強(六甲教会の Knorr 神父様の個人レッスンとゲーテ・インスティテュートの集中講座)も始め、大学卒業後1976年に国立音楽大学 Hannover 受験の為に渡独し、W. Heutling 教授のレッスンが始まりました。レッスンの内容はそれ迄日本で受けていた内容とは異なり、先ず楽器を持たずに立ち方、そして呼吸の仕方等を指摘され、その次のステップはそれらを楽器を持って練習するという具合で、演奏の指導はなかなか始まりませんでした。当時の下宿が、町から25キロ離れた、信号も無く窓から牛が見えるという村のドイツ人家庭であった為、ドイツの暮らしにも慣れ、ドイツ語も上達しました。

Hannover の音楽大学生時代は、国立オペラハウスでエキストラとして働く為のオーディションを受け、プロのオーケストラで演奏することも経験できました。今はアジア系の人や女性も増えて、

むしろドイツ人男性が少なくなりましたが、当時はオーケストラのメンバーは圧倒的にドイツ人が多く、外国人は5%とか決められた枠の人数しか入れず、しかも女性は産休等で長い期間抜けたりすると、正式な団員に採用されて働きたくなり、可能な限りのオーケストラに応募し、数多くのオーディションを受け、その中から Braunschweig 国立劇場（設立 1690 年）のオーケストラ（設立 1587）に入団することになりました。このオーケストラのメンバーは約100人。年に60回以上のコンサート、又オペラやバレエ等の公演は150～160回有り、その間にリハーサルが入って来ます。週末無し、祝日無し、年末年始無しで届く毎月のスケジュール表に従っての生活に加えて、Trio や Quartett を編成しての室内楽活動、また Hannover 時代の教授のアシスタントも務めました。

日本に帰国して新しい生活が始まっています。スケジュール表から解放され自由になりましたが、全ての予定を自ら組み立て活動する難しさも感じます。

Braunschweig は Niedersachsen 州第2の町で、人口25万人くらい。Niedersachsen 州の州都 Hannover でも53万人くらいで、Berlin や München に比べるとこじんまりしています。劇場ではこの時期、年末にかけて恒例のオペラ「ヘンゼルとグレーテル」やバレエ「くるみ割り人形」を上演して、子供たちもオペラやバレエを見に来ます。

43年の間には色々なことがありました。何といっても1989年にベルリンの壁が崩れたこと、その時に自らハンマーで割ったベルリンの壁を当日ご持参くださいました。

日本に戻って、音楽療法とか、何か音楽で役に立つことをしたいと思っていた矢先、コロナで思うように活動できません。ヴァイオリンや弓のメンテナンスの為に1年～1年半に一度はドイツのそれぞれの工房に持って行く予定をされていたのですが、行けないままです。

（理事 押尾愛子）

12月の Stammtisch mit Zoom のお知らせ

12月18日(土)に会員 平木 ひろみさん(ドイツで Volkshochschule に通いました)を予定していましたが、平木様から延期してほしいと連絡がありました。12月18日は中止といたします。

ドイツ語談話室

第205回ドイツ語談話室

日 時 : 2021年11月20日(土) 14-16時

場 所 : 神戸日独協会 会議室

テーマ : 世界の新しく生まれた政府

今回の司会は川見正之氏が担当され、今年新しく生まれた世界の主な政府を振り返られた。1月にアメリカのバイデン政権、2月にミャンマーのクーデターによる軍事政権、8月にアフガニスタンのタリバン政権、9月にドイツの選挙があり連立政権の模索中、そして10月に日本の総選挙があり、自民・公明の政権継続が決まった。日本とドイツの選挙において注目すべき点で、若者の政治

関心度の大きな差がある。日本の若者の投票率はドイツに比べてとても低い。ドイツの若者の投票率は70%台で全年代を通してほぼ同じであるに比べ、日本の若者の投票率は30%台である。日本の民主主義はシルバーデモクラシー(シルバー世代の投票で決まる)と呼ばれる所以だ。以下に参加者皆さんの意見の一部を紹介する。

—ドイツの政界でも権力に利益がついて回り、各政党は権力のポストを要求してなかなか連立が決まらない。すべての権力が利益・金とつながっている。

—中国の習近平主席は全権力を掌握して、毛沢東、鄧小平に次ぐ3人目の歴史上の偉人になろうとしている。また、台湾を統一しようとして、軍事力を発動する可能性もある。

—ドイツでの最低賃金は全国統一で、法律で定められているが、日本の最低賃金は驚いたことに、各県ごとにばらばらで、統一されていない。

—日本の政治家の数は多すぎると思う。また、野党の勢力があまりにも弱すぎて、自民党による独裁政治を許し続けている。

—政教分離が大原則だと思うが、日本における公明党と創価学会の結びつきに問題はないのだろうか。

—各国で、政権を取った政党について多くのスキャンダルが報道されているが、ドイツでも同様だ。

—フィリピンの政権、特にドナルド大統領は、アメリカの前大統領、トランプ同様、問題が多い。

—日本政府の国債に頼る借金政治はますます増強され、返済の目処や具体的な返済計画のないまま暴走していて、とても心配である。

今後のドイツ語談話室の予定

第206回 2021年12月18日(土) 14－16時 テーマ： 新年への期待

第207回 2022年 1月15日(土) 14－16時 テーマ： とら年

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 205. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag, 20. November, 2021, 14 bis 16 Uhr

Thema: Neue Regierungen in der Welt

Dieses Mal hatte Herr Masayuki Kawami die Gesprächsleitung und sprach zuerst über die Regierungen in der Welt, die dieses Jahr an die Macht gekommen sind. Im Januar war das die Regierung Biden in den USA, im Februar durch einen Putsch die Militärregierung in Myanmar, im August die Taliban in Afghanistan. Im September gab es in Deutschland eine Bundestagswahl mit der Entstehung einer Koalitionsregierung und die Wahlen in Japan endeten (wie immer) mit einem Fortbestand der LDP Regierung. Es gibt große Unterschiede zwischen Japan und Deutschland, insbesondere auch bei der Wahlbeteiligung. In Japan zeigt sich vor allem auch bei der Jugend eine

Teilnahmslosigkeit gegenüber der Politik. Die Wahlbeteiligung ist unglaublich niedrig. Während die Wahlbeteiligung bei der Jugend in Deutschland bei 70% liegt, liegt sie in Japan bei nur etwa 30%. Die Demokratie in Japan wird deshalb auch eine "Demokratie der Alten" genannt.

Hier einige Wortmeldungen der Teilnehmerinnen und Teilnehmer:

-Auch in Deutschland ist politische Macht stets mit Geld verbunden. Die kandidierenden Parteien suchen ihre Machtpositionen zu verteidigen, wodurch ein Konsensus oft schwer zu erreichen ist.

-Der chinesische Präsident, Xi Jinping, hat die gesamte politische Macht in der Hand und will zum dritten großen Mann der chinesischen Geschichte werden, nach Mao Zedong und Deng Xiaoping. Er möchte die Einbindung Taiwans und es besteht die Wahrscheinlichkeit, dass er auch militärische Macht dazu einsetzen wird.

-Der Mindestlohn in Deutschland ist im ganzen Land vereinheitlicht. In Japan ist er überraschend unvereinbar, jede Präfektur entscheidet über einen eigenen Mindestlohn.

-In Japan ist die Zahl der Politiker zu groß, wobei die Zahl bei den Oppositionsparteien geringer ist, was ein Alleinherrschen der LDP immer noch zulässt.

-Entstaatlichung der Religion sollte ein Prinzip unserer Politik sein. Die Beziehungen zwischen der Komei Partei und der Sokagakkai (einer buddhistischen Sekte) sind jedoch sehr undurchsichtig.

-In vielen Ländern verwickeln sich Regierungen in Skandale. Das gilt mitunter auch für die deutsche Regierung.

- Regierungschefs, wie der Präsident Duterte oder der ex-US-Präsident Trump sind sehr problematisch.

- Die Schulden Japans steigen ständig an, doch die Regierung hat weder Ideen noch konkrete Pläne, wie diese zurückbezahlt werden sollen. Die Situation ist bereits sehr kritisch geworden.

Nächste Treffen:

Samstag, 18. Dezember, 2021, 14 bis 16 Uhr, Thema: Erwartungen an das neue Jahr

Samstag, 15. Januar, 2022, 14 bis 16 Uhr. Thema: Das Jahr unter dem Tierzeichen „Tiger“.

会員の広場

このコーナーは、会報を通して会員相互の交流をしていただくための「広場」です。

今月は紙面の都合にて休載させていただきます。

ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定: MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで (多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第2月曜まで事務局へ)

2022年関西地区日独協会合同新年会

2022年の関西地区日独協会の合同新年会を、1月7日(金)に開催いたします。

関西地区の大阪、神戸、奈良、和歌山、大津、京都の日独協会は、平素より互いに連携をして、日独親善交流に努めています。合同新年会は、各日独協会の会員が新春に集い新年を祝賀し、相互の懇親を深めるために毎年年初頭に開催しています。会員の皆様にはこの合同新年会に是非ともご参加いただきたく、ご案内いたします。

日 時： 2022年1月7日(金) 19:00～21:00

場 所： アサヒスーパードライ梅田

ニッセイ同和損保フェニックスタワーB1 TEL06-6311-2829 JR大阪駅徒歩10分、御堂筋線
梅田駅徒歩10分地下鉄谷町線東梅田駅、JR東西線北新地駅徒歩5分

会 費： 当日 各自実費清算。

申 込： 参加ご希望の方は、1月6日(木)までに、事務局にご連絡ください。

後援公演のご案内

令和3年度兵庫県立ピッコロ劇団ファミリー劇場

グリム兄弟！ ～みんなのメルヘン きかせてダンケ～

会報6月号でご案内しました後援公演兵庫県立ピッコロ劇団ファミリー劇場「グリム兄弟！～みんなのメルヘン きかせてダンケ～」が、クリスマスに兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホールで再び公演されます。前回ご紹介した8月公演は未だウイルス感染の広がっていた時でした。感染も減少してきたクリスマスに、お子さん、お孫さんと一緒に「グリム童話集」を題材とした公演をお楽しみください。今回も神戸日独協会会員は特別斡旋価格(1割引、ピッコロシアターに電話・メール予約の場合のみ)で鑑賞できます。詳しくは、同封のパンフレットをご覧ください。

公演劇場： 兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール(阪急神戸線西宮北口駅下車)

公演日時： 2021年12月25日(土) 15時 12月26日(日) 11時/15時

料 金： 一般 3,000 円 高校生以下 1,500 円 セット券(一般+高校生以下) 4,000 円

全席指定(税込)、3歳以上有料

予約方法： チケット予約の際に「神戸日独協会扱い」と申し出る。

電話 06-6426-8088 ピッコロシアター「グリム兄弟！チケット係」まで

メール gekidan-p@hyogo-arts.or.jp 件名「グリム兄弟予約チケット」

- ① 予約者氏名 ②電話番号・住所 ③ご観劇日時 ④券の種類・枚数 ⑤観劇する全員の氏名を明記

問合せ先： ピッコロ劇団 TEL 06-6426-8088 (月曜休館)

事務室からのお知らせ

年末・年始の協会事務室の閉室について

12月27日(月)から1月5日(水)まで事務室は閉室します。

※閉室期間中、催し等のお申込み・お問合せはFAX・メールでお願いいたします。

Das Büro der JDG Kobe ist von 27. Dezember bis zum 5. Januar geschlossen.

会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の印刷と発送は1月13日(木)を予定しています。お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡下さい(TEL 078-230-8150)。

印刷： 兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号

国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度

発送： 神戸日独協会にて、12:30～